

仲泊遺跡などを案内！

今回は博物館の日頃の活動のひとつをご紹介します。恩納村博物館では村内外の保育所や幼稚園、小中学校や高等学校などの団体見学の受入れのほか、校外学習での遺跡見学や文化財巡りなどの案内・解説なども行っています。

令和2年6月に仲泊小学校からの依頼を受け、「総合的な学習の時間」の校外学習にて博物館職員が講師を務めました。全3回の授業で、6年生の皆さんを仲泊遺跡や国頭方西海道へ案内しました。

第1回目は6月18日に仲泊遺跡にてフィールドワークを行いました。仲泊遺跡内にある約3,500～2,500年前の縄文時代の各貝塚や住居跡、琉球王国時代の比屋根坂石畳道のほか高麗人墓、イユミーバンタなどを案内し、仲泊遺跡がこういったところなのか、当時の人々がどのような場所で生活していたのかなどを紹介しました。また、国頭方西海道の一部を実際に歩きました。梅雨明け後の暑い日でしたが、6年生の皆さんは解説をしっかりと聞き、メモをしている姿が印象的でした。

第2回目は6月25日に博物館にて行いました。展示室にて、仲泊遺跡の発掘調査で出土した遺物などを見学してもらい、当時の人々がどのような道具を使って生活していたかを紹介しました。また、村内では他にどのような遺跡が発見されているのか、発掘調査からどのようなことが分かるかなども解説しました。その後、研修室に場所を移動し、当時と同じような方法で製作した土器のレプリカや仲泊第一貝塚で発見された大型の石斧のレプリカなどに実際に触ってもらいました。現代の焼物である陶器や磁器との比較も行い、その違いも体感してもらいました。

第3回は7月2日に歴史の道「国頭方西海道」でのフィールドワークを行いました。時折、小雨が降るあいにくの天気でしたが、真栄田の一里塚やフェーレー岩など国頭方西海道沿いに点在する文化財を見学して回りました。また、山田メーガー、護佐丸父祖の墓、山田谷川（ヤーガー）の石碇の間は実際に国頭方西海道を歩きながら、解説を行い、当時の道の雰囲気を感じてもらいました。最後に博物館まで戻り、敷地内にある唐人墓の墓碑の紹介を行いました。



仲泊第三貝塚での解説の様子



触って焼き物の違いを確かめました。



山田メーガーでの解説の様子



真栄田の一里塚で記念撮影